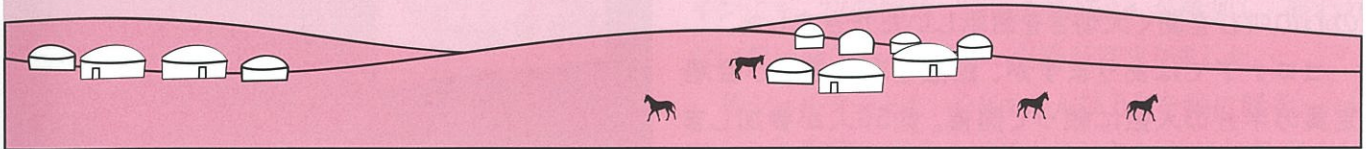


Newsletter

vol.44

「ぴあ・かもみーる」日記②1 ●
パオなひと講座 ●



パオの
現いま

「ぴあ・かもみーる」日記②1

パオの子どもたち一人ひとりには、権利擁護や法的手続きなどを支え続ける「パートナー弁護士」が2人(3人のときもあります)についています。ただ子どもたちは、ぴあ・かも家の中やさまざまなイベントの際に、自分のパートナー弁護士のほか、理事長、事務局長、他の子どものパートナー弁護士ら、いろいろな弁護士と接します。

私は、入居中の子どものパートナー弁護士を務めていないときは、毎月1回程度、ぴあ・かもに宿直に入る弁護士として関わります。月に1度なので、新しく入居した子が増えたり、先月にはいた子が卒業したりと、限られた付き合いなのですが、子どもたちはとてもよくしてくれます。

宿直の夜、子どもたちが夕食を終えた頃にぴあ・かもに到着すると、玄関まで迎えてくれ、ニコニコとダイニングに招き入れてくれます。子どもたちはすぐに私の名前を覚えて、流行の歌手を教えてください、おしゃれやファッション、学校やアルバイトの出来事について話してくれたり。何度か会ううちに、恋の相談をしてくれることもあります。もしかすると、時には厳しい意見を言われるパートナー弁護士や、頻りに顔をあわせるスタッフではない、「月1の人」だからこそ、逆にぼろっと話しやすいこともあるのかもしれません。

また、長く在籍している子とは継続的な関わりが生まれます。本や漫画、好きな楽曲を共有できるようになったり、寂しがり屋と思っていた子が、いつの間にやらしっかりしたお姉さんの表情になっていたり。口数の少なかった子がしっかりとした意見や考えを話して

聞かせてくれたりすることも。子どもたちの変化や成長のパワーにいつも驚かされます。

倍近く人生を経験しているはずの私ですが、子どもたちに教わることがたくさんあります。子どもたちが共同生活のルールの中で丁寧に暮らしている様子を見ながら、自分の生活態度を正そうと思うこともしばしばです。休日の朝早くから寒い中、白い息を吐き吐き自転車でアルバイトに出かける子どもたちの背中に「いってらっしゃい」と声をかけて見送っていると、私も頑張らなくては!と前向きなパワーをもらいます。宿直のお手伝いに行っているのではなく、子どもたちから元気をもらいに行っているのではないかとまで思います。

子どもたちにとっても、私と一緒に過ごした時間やおしゃべりが、少しでも日々のストレス発散や、一日の原動力に繋がったら何よりうれしいです。これからも「月1の人」なりに、程よい距離感の中で子どもたちと大切な時間を重ねていけたらいいなと思っています。

(弁護士・H)

